

地域広聴会アンケートによる主な意見

松江会場

【全般】

- ・ 現状と目指すべき将来像は、すべてが理想論であり、当たり前のことを文章化しているだけに思う。すべてを進めていくことは現実的に不可能だと感じるので、的を絞って中途半端にならないようにしてほしい。
- ・ 島根の全国における役割・特徴、地球環境等グローバルな課題を前面に出し、島根も役割を担っているという姿勢を出してほしい。
- ・ 総花的であり、県や地域が具体的に何をするのか、県は予算を重点配分するのかを示してもらえると、もっと充実した計画になると思う。県と市の分担も明確にするとういと思う。
- ・ 総合的な発展のために、各市町村との連携のあり方はどのように考えるのか。
- ・ 「総合」と名の付くように細部にわたった政策・施策になっているが、パッと目を引くもの、魅力を感じるものがないと感じた。他の県にない島根のやり方、あり方を見せてほしい。
- ・ 過去から計画はいろいろあったが、計画が崩れるのは総花的な面が強いからと考える。柱を絞って進めてほしい。
- ・ 「総合発展計画」ということで、どうしても総花的な計画にならざるを得ないと思うが、金がなくては何もできないと思う。産業振興、企業誘致に力を入れるなど、メリハリを付けた施策の実施をお願いする。
- ・ 調和のとれた計画だと感じた。しかし、こうやって島根を変える、発展させるという明確な方針と強い意志が感じられない。県民の意識を変え、一つの方向に向かうメッセージ力のある計画にしていきたい。
島根が発展するためには、もっと稼ぐ力を作ることが必要だと思う。稼ぐ力がないと行政サービスもできない。若者を雇用することもできない。そのためには県民がもっとどん欲に稼ぐ意識を持たないと発展はないと思う。この計画が県民の意識改革に一石を投じるようなものになることを期待している。
- ・ 計画の中で、3本の基本目標、15本の政策、61本の施策が掲げられているが、本当に100%の力を向けていくのか。この中で本当に勢力を向けるランキングがあるのでは。もしあるのであれば上位5番位を公表してみてもいい。
- ・ 計画が目指す方向の実現手段としての、市町村、企業、団体、NPO等との連携関係についてはどうか。県の施策が県民一人ひとりに効果として届くまでの道筋をどのように考えているのか。
- ・ 内容はすべて必要であり、重要であるものばかりだとは思ったが、それについての具体性が見えにくいと感じた。また、長期的なビジョンに基づいた政策が多いという印

象を受けた。一過性のもので終わらず、将来長くにわたって実行していける施策という意味では良いと思う。

- ・ 総合発展計画は、「広く県民の皆様が目標を共有できる計画」となっているが、具体的にになると施策、事務事業となり、県が行うということになる。国との関係で地方自治だけでなく、住んでいる人の自治を引き出す、応援することも県の役割であることをもっと打ち出すべきだと思う。

計画ができた際には、市町村が作成している計画も同時にわかるようにしていただければと思う。

- ・ 従来のもので焼き直しのように新鮮さがない。どこかで見たことがあるといった印象。
- ・ 従来計画との違いがわからなかった。比較することで課題が浮き彫りになるのではないか。

県土の均衡ある発展の観点はあるのか。人口分布状態などをみれば、重点地域があつてよいのではないか。メリハリをつけないと無理ではないか。

- ・ 目標達成に向けての政策・施策体系が示されているが、計画の中での各施策ごとの具体的な数値目標は示されているのか。また、今後達成度合いはどのように評価されるのか、県民にわかりやすく知らせていただきたい。
- ・ 市町村との連携に関するものが少ない。
- ・ 計画の実行が具体的に示されていない。計画を進めていく上での具体的な数値等を示すべきだ。
- ・ 計画倒れにならないように、取組みの経過を広く県民に示して欲しい。

【協働】

- ・ 住民自治なくしてはNPO活動の発展や若い人も育っていかないと思う。そうしたことへの支援は重要。
- ・ 協働をより明確にしていくためには、総合計画の策定段階にも「協働」を取り入れていく必要を感じた。
- ・ 島根県でこれからも明るく豊かに住み続けていくには、それぞれの持ち場、役割を皆が自覚した上で、それぞれが微力でもこの地域での活動の一つを担っているという「志」で行動にうつせる社会づくりを構築しないと、計画で終わってしまう。
予算の限られた中での政策は即実行にうつせないものもあるが、NPOなど県民が県民パワーで進めている活動について、NPOまかせにするのではなく、県が広く高い認識のもとで、強い後ろ盾で支援をしていただきたい。
- ・ どうやって県民と行政が共に進んでいくようにするかが最も大きな課題である。そのために、今回のような計画策定前の広聴会だけでなく、毎年進捗状況等の広聴会を県内各地で開催すべきではないか。

【県内就職】

- ・ 高校生の立場で、県外へ行きたいと思うのは、県外には若い人たちが楽しく過ごせるというイメージがあって、レジャー施設やいろいろなお店も多くあってと考えるからだと思う。島根をそのような都会にするのはとても難しいことだと思う。なので、都会へすぐ行けるような交通を発展させていけば、すぐ都会へ行けるということで、島根県の定住が増えると思う。
- ・ 県内就職情報について、県、教育機関、産業界等を連携して、企業リスト・就職リストを一元化すれば、県外への受注斡旋や紹介、また求人にも利用できるのではないかと。例えば、産業振興財団に行けばデータベース化されて、県内企業のすべてがわかるような方策はとれないだろうか。

【政策・施策】

- ・ 経済基盤の充実に関する施策の必要性を強く感じる。少子化が一番の問題であり、人口が増加しないことには何事も進まない。
- ・ 県の総合発展の根幹はやはり産業の発展・支援が重要と思う。県としては「島根県」の存在というものをまず全国的にうまくPRしてほしいと思う。中小企業支援制度等の情報発信を積極的にしてほしい。
- ・ 〔子育て支援〕誰が見ても魅力のある、子を産み育てやすい県だと認識されれば、年少人口が増加し、県外からの転入も増えていくのではないかと。
- ・ 生涯を通じた学習・社会貢献活動がひとくくりになっているところに、位置付けの弱さを感じる。「生涯を通じた学習の推進」と「NPO活動等社会貢献活動の推進」のように施策を分けていただくことを提案する。
- ・ 島根県の発展を考えると、東西の交通整備及び高速道路の低料金化が望まれる。現在、南北に向かって高速交通が伸びているため、山陰から山陽側へ物・金が流れ、さらに衰退するのではないかと考える。
都市部の空き店舗、田舎部の空き家、荒れ地等空白の土地が点々と散らばっている。空白の土地を埋める施策を検討していただきたい。
- ・ 高齢者人口の増加、また障害者において、島根の特性である自然と連結した新しい事業を展開してはどうかと思う。すばらしい自然と共に暮らしていける高齢者へのサービス、心のリフレッシュ機能として自然を使った障害者へのサービスなど、他県ではやっていない新しいことが産業発展に大きく貢献すると感じた。
- ・ 島根県にも企業誘致のための土地が取られているが、それが今空き地となっている。税での優遇などはどこでも行っているのに、島根にきてもらうために何を売りにしているのか具体的に知りたい。
- ・ 少子化の時代、せっかく島根に生まれた子どもを一人残らずちゃんと育て上げるために、大人の責任として何をしなければならぬのかを、よく理解できる形で表現して

いただきたい。子どもの発達保障の視点が必要。

- ・ 農林水産業の生産額が下がってきているが、直接的な対応として書かれている政策 - 2 の 4 点（一貫した取組み、ニーズ把握、仕組みづくり、担い手）のうち、どれに力を入れようとしているか。具体的な方策は立っているか。
- ・ 政策的視点として、ボーダーラインのところにある人たちの暮らしを引き上げる考え方も、総合的発展計画には大切ではないか。

県民の各界各層が生産的な活動の場に参加できる協働の仕組みづくりと、意識的に推進する官・民・地域（行政、企業、地域）のネットワークが必要ではないか。

- ・ 人間の底辺教育 心の面での基礎教育などはすべての施策に先行する。
- ・ 少子高齢化社会にある中、子どもが多くなるような考え、施策を設定して欲しい。
- ・ 現状の財政状況は厳しいとは思いますが、住みよい島根、暮らしやすい島根のために、他県と比べて税負担を軽減するなどの対策がとれれば、県外からの流入が期待できるのではないか。

格差社会はエリア間だけでなく同じエリア内でも発生していると思うし、自然環境、福祉環境等生活社会の整備と連動して実施できれば、本当に住みやすい地域になっていくのではないかと思う。

【広域】

- ・ 〔県境を越えた圏域における行政間の共同機関の設置〕道路交通網の整備、情報通信網の整備に伴い、県境を越えた経済圏の活動が活発になり、経済圏と行政圏の違いが問題となってくる。松江圏と鳥取県、浜田圏と広島県、益田圏と山口県、飯南町と三次市等、上記の課題解決のため、島根と各県の間で実質的な議論と実効性のある計画が作れる合同機関をぜひ設置してもらいたい。

そのために、鳥取と合同で中海圏の経済分析を行うとか、様々な圏域内の行政データを一元的に集約し分析する取組みを行ってもらいたい。圏域の共同政策策定に活かし、共同ビジョンの策定につなげていただきたい。

- ・ 道州制を踏まえた施策検討、道州制ならずとも山陰両県との連携強化は必要ではないか。産業振興をするのに、企業には行政の区割りは必要ないわけで、市・町・村・県の区割りで企業への補助メニューの差があっては実効的でないように思う。

【地域づくり】

- ・ 島根県を総合的に発展させるために地域別に考えるのはいいが、各地域とも同じような問題・課題を抱えている。したがって、地域的なものをいかに全県的に連携させて、県を総合的に発展させるかを考え、明確に県民に示すべきと考える。

また、縦割り政策にもなっているが、横断的な連携を図り、一体的に計画策定されるべきである。

- ・ 今回、圏域ごとの計画を策定されたのは評価したい。この圏域の目標に向け、県のリーダーシップをお願いしたい。特に観光面では、広域観光の推進をメインに掲げてあり、“縁結び”等今後とも持続発展に向け、強い県の政策をお願いしたい。
また、鳥取県との連携についてもさらなる強化発展を期待したい。
- ・ 総花的になりがちな総合計画を、今回は東西圏、7圏域など地域の特性を考慮しながら計画化されたことはよかったと思う。問題はこれがどのように実行されていくかが大切。到達目標や評価方法も明示して欲しいと思う。
- ・ 産業振興や企業誘致で県土の均一な発展を図ることには無理があるように思う。できるところからやっていく、その波及効果で周辺部へ。
- ・ 西部エリアの発展に山陰自動車道の建設は必要不可欠と思うが、その完成を待たずに、中小企業の支援、新しい産業の誘致だけでなく既存産業の支援・応援をしていただきたい。東部の集中的発展が島根県の地力の向上には効率のよい政策だと思うが、東部・西部いっしょになった発展をお願いする。
- ・ 「地域づくりの方向」が圏域別になっているが、1圏域平均3市町村となっている中、市町村の役割が重要である。県の組織を含め、市町村の力量アップ、取組みを強化するための対策が必要ではないか。
- ・ 東部・西部エリア、地域圏ごとの発展方向を示しているのは賛成。ただし、連携という視点も意識する必要がある。
- ・ 東西、圏域のバランスと特徴をわかりやすくPRしてもらいたい。
- ・ エリアを分けて論じることはよいと思う。歴史、風土も違うので理解しやすい。隠岐を出雲に含めるのも結構。

【中山間地域】

- ・ 個々の施策が総合的に中山間地の諸課題への対策になると思うが、政策の柱として集中的に中山間地に言及する部分が必要ではないか。実際に先細りを目前にする農村集落に生活している者としては、安心感や希望が持てない。

【その他】

- ・ 県・関係機関を含め、現場へ足を運び、現場のニーズに沿った発展策を行って欲しい。現場に行くことは、そこの現場の現状、問題点を知り、改善策を行うことが必要。
- ・ 島根の金融資産は4兆円以上あると思う。県に予算がないのであれば、民間資金を活用したプランを県・市が提案し、県民から資金を集め、採算性の点でのリスクを十分に吟味して出したらどうか。
- ・ “竹島”というキーワードをぜひ総合発展計画の中に取り入れていただきたい。

飯南会場

【全般】

- ・ 道州制など広域的な連携策と島根県の中での役割の設定がされていない。地域経済活性化のための具体的な方策が見えない。
- ・ 県単位では素晴らしい計画だと思うが、県民一人ひとりに行き渡る本当の計画、実践を期待する。
- ・ 将来像にしても、3つの基本目標にしても、島根らしさが見えない。
- ・ 薄く広くではなくメリハリを。分野にメリハリをつけるか、地域にメリハリをつけるか。考えが常識的すぎる。常識では島根はつぶれる。
- ・ 市町村合併、今後の道州制の導入など、行政が集約化されつつあり、従来の末端までの対応がされなくなるのではないかと。最近新たな公共等がいわれるようになったが、今後は地域コミュニティの役割が重要視されるのではないだろうか。こうした視点を具体的に盛り込んでいただきたい。
- ・ 発展計画を進める上で人づくりを大切に、縦割りのものの考え方ではなく、横のつながりを大切にしたい。
- ・ 総合計画としては全体的な内容になっていると思うが、優先的に進めることを明確にする必要がある。
「発展」よりもよい言葉があったのではないかと。他県にはない「飛躍」などの言葉で進めてはどうかと思う。
- ・ 役場職員の意識改革も含め、この計画をいかに具現化していくか、実効性を確保していくかが重要と思う。県の事務事業の内容、目標に対する進行管理をしっかりとやっていただき、住民一体となってより良い島根を築いていければと思う。
- ・ 全般的な計画になるのは仕方がないが、どこに特に力を入れていくのかわかりにくい。もう少し目玉となるポイントがあってもよいのではないかと。
- ・ 基本目標の3本は、昨年春の知事選の溝口知事候補のリーフレットや県政についての基本的考え方の基本目標 活力あるしまね 安心して暮らせるしまね 心豊かなしまね に沿って一字一句変わらないものと解釈している。もう少し大胆な発想で内容を加味、充実させていただきたい。
- ・ 今回の計画、内容はとても充実している。早急に実現に向けて具体的取組みをして欲しい。また、その実現のために私たちに何を求めるか示して欲しい。

【政策・施策】

- ・ 産業振興が一番重要だと思うが、少子高齢化が進展している中で、具体的な対策を実施計画の中で早めに示して欲しい。
- ・ 将来像、基本目標、政策、施策の体系については、理解しやすく、それぞれが非常に重要であると思う。

- しかし、施策までの段階で「エネルギー対策」「食糧対策」が掲げられていないことは、物足りないと感じた。石油に頼らないエネルギーの確保を推進していただきたい。
- ・ 政策、施策の中でも特に雇用・定住の促進がいち早く実現されるように望む。人口の流出が進めば、発展は望めない。
「島根がおもしろい」といろいろな面でいわれるようになるよう、自分ができる範囲の中で参加していきたい。
 - ・ 製造品出荷額 1 兆円に対する県の予算規模 5,000 億円超、このアンバランスはどうにかしないといけないと感じている。
「農」と地域社会は同義語。島根を守り育てるためには、農の価値を見直すとともに、中間段階でのコストをカットするような思い切った流通革命が必要だと思う。
 - ・ 格差を生まないためにも、人権感覚の高い人づくりを計画の中心に据えるべきではないか。産業の発展が心豊かな人づくりに結びつくという考え方もあるかも知れないが、人が人として生きていく基本としての人権意識を高めあうことを訴えるべきと思う。

【地域づくり】

- ・ エリアの設定、圏域の設定をし、発展の方向を示したことは、県だけでなく市町村計画と連動した計画と思われ、良いように思う。また、中山間地域の方向性というところも良いと思う。

【中山間地域】

- ・ 中山間地域対策は農業支援、山林保全支援である。
- ・ コミュニティの維持再生は中山間地にとって特に大切なことであると思う。コミュニティとはボランティアやマンパワーによるものと思うので、県職員のコミュニティへの参加をお願いする。
- ・ 中山間地域については一番人口変動が多く、高齢化が進んでいる。人口増加、維持のためには、いかに減少地域で歯止めをかけるかが重要と思う。生活圈、病院も県外へ流れるのは、県内に魅力がないから、近くにないからである。県外に近い地域から先に人を呼び込むための対策がされるべき。
- ・ 中山間地域でも生き残っていくためには、情報網整備はとても重要なことだと思う。環境さえ整っていれば定住希望者の受入にも有利になる。できれば県をあげて取り組んでいくべきである。
- ・ 地域コミュニティの再構築のため、人づくり施策に力を入れて欲しい。
- ・ 中山間地農業が発展するために具体的な方向性を見出すために私に何ができるか、今日の発展計画をもとに考えてみたい。
若い農業の担い手が育つ地域にしていきたい。
- ・ 中山間地域のもつ意義、大切さを国民に理解してもらうことが、環境問題、食糧問題

にとって大きな問題であると思われる。子どもたちに徹底した理解を求める活動をすべきであると思うが、今の子どもたちが大人になるまで中山間地域を維持できるかどうか問題である。

【その他】

- ・ 島根県で全国の高齢者を受け入れ、中山間の自然の中で、産業としての老後長期滞在産業を作る。空き家の再利用、都市の退職者の受入と農地貸与による生活しながら農業ができるリサイクルハウスの試み等、トライできる元手についての補助制度を作っ
て欲しい。

浜田会場

【全般】

- ・ 島根県の場合、人口減と経済の落ち込みが一番深刻な問題となっていると思う。この問題を打開できる施策の実施が大事であると思う。
- ・ “しまね”として考えたときに、3つの基本目標を満たすものとして、地元出身の人に積極的にUターンなどをPRするのが良いと思う。
- ・ プライオリティをつけるべき。達成目標がない。この2点がないため計画になっていない。

産学官の連携した地域づくりが島根の発展を促すと感じている。

- ・ 使っている言葉に個性がない。全体的にはもっとユニークさを出すべき。
- ・ やって当たり前、当然の政策の羅列の気がする。島根だからこそ実施できるような、島根の色を出した施策として欲しい。
- ・ 計画の内容（中身）よりも、県民にいかにして周知するかが大事なのではないか。
- ・ 島根の特質は自然が豊かであることにつきと思う。少子高齢化は人口の社会減に拍車がかかり、格差は開く一方だ。農林業の振興以外に解決はないと思う。これからは環境と自然の保護に比重を置く施策を求めるべきだ。
- ・ 活力を求める最大の要因として、県民の所得を向上させる意気込みを示して欲しい。産業振興等を通じた一人あたりの生活向上を目指して欲しい。
- ・ 島根の課題を解決していくには構造改革しかない。島根の強い産業（IT系、食品加工等）の強化と、優秀企業の誘致、関係する理工系、食品系の人材確保が第一。行政のアウトソーシングにより大幅な職員配置の転換と、そのことによる民間事業の拡大と雇用の創出。

北東アジアとの経済産業の共創。

広島、福岡、大阪、名古屋、東京等の住民、消費者団体との密接な関係の構築。

森林資源の多い島根県産木材を利用したアルコール燃料の開発。

- ・ 地方圏から大都市圏への人口流出の防止策の検討が早急に望まれる。地方の人材確保、医療対策等が考えられる。
- ・ 総花的になっているが、もっと重点を絞っての施策も必要ではないか。
- ・ みんなで発展計画を 120% 頑張っても人口は激減する。20 年後の島根県の人口 40 万人を想定した活力ある計画を作るべき。過疎の魅力の追求が最も必要。人気取りのために県民をだましてはいけない。あれもやる、これもやるではなく、何をしないかを議論すべき。
- ・ 産業振興と財政健全化を並行して取り組むことが本当に可能なのか。島根県の場合、民間の資金力が弱いため、地域活性化にこの資金利用方策に難しさがあるのではないか。
- ・ 県西部に位置する益田市は、県庁との地域格差があり、県全域の発展に支障があると思われる。特に交通網における施策は重要であり、山陰自動車道の整備を促進する必要がある。
- ・ 「島根の現状と課題」で記載してある事項がなぜ生じたのかについての総括・分析なくして、真の方針・計画にはならないのではないか。特に国の政治の有り様が島根のような地方圏の現状を生み出しているのではないか。そのような中で、島根としての計画は過疎県を逆手にとった大胆な方針・計画が必要ではないか。
- ・ 医療体制、教育、雇用といった点を充実させるだけで、ある程度の人口減少は防げると思われる。その上で島根の特色を活かす策を行うべきではないか。
多数ある施策の中から本当に大事な施策をよく考えた上で推進をすべき。
計画を立てる時点で若い世代の意見等をもっと取り入れることで、より現実的な内容になるのではないか。
- ・ 計画名称の“ 発展 ” は経済発展ととられがちで、環境問題から考えると、発展が必ずしも良いものではなく、後退も気持ちの部分では充実している計画であって欲しい。

【協働】

- ・ 長い島根県では画一的な施策が出せないことを考えると、協働は重要な目標であり、手段ではないと考える。
- ・ 協働を基本・基調に明文化して欲しい。協働を推進することで、発展計画を実現する手段として活用して欲しい。
- ・ N P O、地域の方々、民間企業との協働の具体的な県の姿勢を盛り込んでいただきたい。専門性、住民との関係性、県民の立場に立った価値観を持っている点を考慮した協働を進めていただきたい。

【政策・施策】

- ・ 医療関係の遅れが目立つように思う。特に中山間地においては医師不足、第三次医療

機関への到着時間の長さといった問題の早期解決が必要だと思う。

- ・ 医療の充実について、がん対策の総合的推進と記されているが、具体的提起をして欲しかった。東部と西部のがん死亡率がどのようになっているのか調査結果を公表すべき。成人病対策を含め、がん検診で早期発見に向けた県の取組みをすべき。
- ・ 温暖化防止への取組みを具体的に入れたらどうか。県の関与の面も含め検討してもらいたい。
- ・ 医療の危機的な状況をもっとアピールすべき。とりわけ島根は高齢化が進む最前線にいる県であり、そんなところへ市場主義原理的なものを持ち込んで、地域医療の崩壊は明らか。
雇用、教育、福祉、医療、保育等がないと若者はこの島根を選んでもくれない。
- ・ 企業誘致等については、今まで検討を進めてきたが十分な雇用の確保に至っていない。今後も大きくは望めない。希望が持てるのは豊かな自然を活用した観光産業しかない。そのためには人材育成が必要であり、県立大学に観光学科等を新設し、観光場所の掘り起こしや外国からの客の受け入れ、もてなしの基本から学ぶ必要がある。
廃止された貯木場の有効活用、日本海活用のポートパーク等の建設。
- ・ 森林税の活用を全国展開できるように、CO2の税を県域を越えてもらってくるような策をお願いしたい。
- ・ 教育の充実の項目に、環境教育に関するものが見あたらない。これからを担う子どもたちの教育に環境教育の推進をお願いする。
- ・ IT産業の振興で島根を全国一のIT産業県にすべき活動が必要。ITを活用して子育て環境の充実もできてくる。テレワーク（在宅）の推進も必要。
定住に関して、国との連携で一極集中をやめて多極分散を早急にやるべき。
ポリテクカレッジ、県立大学、工業高校の連携で産業人材を育成し、島根に定住、Uターンされる仕組みづくりが必要。
- ・ 医療機関の連携強化並びに医師・看護職員の確保について、県は財政面で強力で支援する必要がある。また、医療水準の向上に努力すべき必要性を感じ、具体的な施策を示すべきである。

【地域づくり】

- ・ 圏域ごとの特色を活かし、「金太郎飴計画」とならないように、切るものは切り捨てる勇気も必要ではないか。

【中山間地域】

- ・ 中山間地域対策は、国土保全、環境保全など多面的機能を維持・継承していく国家的な責務であると考え。強力な推進をしていただきたい。
- ・ 中山間の状況は待ったなしとなっている。具体的施策の展開が極めて難しい。いわゆ

る儲かる農業・産業の振興は容易なことではない。島根県の方向性が見えない。

- ・ 中山間地域に対する生きがい対策についても、支援策を出してもらいたい。
- ・ 限界集落の問題について、どうしていかかが明らかになるよう県全体として、あるいは西部地域、中山間地域の発展計画として盛り込まれるよう期待したい。

【その他】

- ・ 高校再編で人気があるから普通高校が残り、専門高校が減る。専門高校が減らされ、県内企業の人材育成がされない。若い人が県内に残ってくれる率が減る。高校再編は将来の島根の人口と産業振興を考えて審議されているのか。

隠岐（島後）会場

【全般】

- ・ 全ジャンルを幅広く網羅されているが、逆に個性が感じられない気もする。島根県オリジナルの魅力あふれる計画にしていきたい。
- ・ 財政が厳しい中、今後4年間でこの計画にどれだけの予算を投入できるのか。今までの産業振興の取組みについての反省、課題を整理する必要があるのではないか。
- ・ 資本主義の社会ではお金がないと生活できないのは当然であるが、少しその意識を改革できないか。様々な教育や啓発活動に、お金では買えない、換えられない大切なものを大事にすることを伝えて欲しい。
- ・ 時代を先取りする分野、施策を明確に打ち出して欲しい。内容としては、地球温暖化を阻止し、地球環境循環型社会構築に向けた取組みの必要性を掲げ、県民運動として取り組んで欲しい。

隠岐の暮らしは自給自足を基本に地域環境の中で循環・持続する生活であり、将来このことが離島の強みになると信じている。総合発展計画の特徴として説明できるよう検討をお願いする。

- ・ 島前・島後が一つになり得ていない現況に視点が届いていないことが残念。小さい時から歴史や伝統文化に親しむ機会を増やし、島の歴史教育がなされなければ、県人として島民としての誇りや自信も育たないと思う。
- ・ 計画はすべての分野にわたって立案されていると思う。戦略、県の活力を高める内容はわかるが、もっと重点化するのがいいと思う。
- ・ 政策、施策が数多く上げられているが、全項目が同時進行されても何に取り組めばいいか困る。具体策を出すにあたっては優先順位をつけて欲しい。
- ・ 地域の崩壊が起きている今日、子ども会、婦人会、老人クラブ、自治会等、地域コミュニティの結集力を高めることが、これからの各種の施策を進める上で大切なことと思う。このことを人づくり（県民づくり）の視点で大きなテーマとした計画にはなら

ないか。

【政策・施策】

- ・ 医療の確保について、医師、看護職員だけでなく医療スタッフ（薬剤師、各専門スタッフ等）も必要であり、隠岐では不足しているので確保を図っていただきたい。
- ・ 地域を活かした計画が大事だと考える。例として隠岐のような環境の良い場所を福祉をもっと充実させればと考える。そこを県の福祉の主体を持ってくるようなことはできないか。
高齢化に対して、廃船処理等今後必ず増加する廃船のリサイクル等を考えて欲しい。
- ・ 島根の産業振興は島根に住むためにも大変重要なことだと思う。特に農林水産業については大規模的な発想しか出てこないと思うが、小規模、個人を大切にした考え方はできないか。
- ・ 観光の側面から、リピーター、口コミでのゲストづくり。道路整備、航路などのまちづくりにおいて、ゲストの目から見た島らしい町並み・風景を全体として作りあげて欲しい。観光の充実、リピートづくりは定住・産業振興につながる。
- ・ 離島隠岐が自立していくためには、農林水産業、企業誘致など積極的展開が必要。そのための支援施策を明記していただきたい。
- ・ 交流人口の増加は何のためにやるのかを考えて、修正することをお願いする。交流人口を増やすために運賃や宿泊代を割引すると、交流人口が増えても地域の企業が採算が悪くなる。産業の活性化を後退させてしまう。値引きをしない誘客が必要。島そのものの魅力のPR、魅力の開発が必要。地域の産業の活性化につながっているのかという視点になれば活性化に向かうと思う。

隠岐（島前）会場

【全般】

- ・ すばらしい内容であるが、計画実現の裏付けとなる予算はどうなのか。
- ・ 医療、隠岐汽船問題、高校存続等の課題に対し、それぞれの担当部署でどのような支援策が講じられているのか。県も財政難の中で困難だとは思いますが、結局は財政支援がポイントになるのではないかと思う。
安全や環境の面で、今後は僻地が強みを発揮できる時代へと変わるかもしれないという明るい希望もあるが、強みを活かした政策を進めるだけの力が消えてしまうのではないかと思うので、人材の育成や人材の誘致が重要ではないか。子育てや教育、老後を過ごす、人間力をつける、人間性を見失わないために、島根が日本の中でそのような役割を担う場になるような施策が生まれると良いのではないかと思う。
- ・ 各圏域それぞれの県民が、自分でなくまず相手の立場になって互いに助け合い、協力

し合うことが全体圏域の発展につながる。そのような教育、啓発を推進していただきたい。

- ・ グローバルスタンダードからみて、島根の付加価値をつけ、情報発信力を高める施策展開を。

行政の枠を越えて、官民融合をさせる展開。

地域ブランド戦略の時代で地域再生を。

- ・ 思い当たることはすべて網羅されている計画となっている。お金さえあれば実現できる項目も多くある。新たな県税も含め、財源の確保が最大の課題。
- ・ 全国への情報発信計画があっても良かった。
島根県が一体となることに一番大切なのが高速道路網ではないかと思う。
- ・ 里海（さとうみ）づくりを計画に入れて欲しい。
- ・ 人口減少、少子化と財政問題もあり、効率を考えると隠岐や中山間地域に力を注ぐことは難しいと思う。この計画が少しでも現実化し、隠岐も見捨てないような施策を展開していただきたい。国が田舎社会を大切にしてくれるような風向きになるよう働きかけていかなければいけないと思う。このことでは島根が1位ということを持ち、PRしていくことが大事ではないか。

島前から県職員が少なくなるであろうが、地域の声が県に届くか、それが施策化されるか心配。町職員との交流などを多くし、県職員がもっと真剣に田舎のことも考えて欲しい。

- ・ 計画の内容をみると、既存の事業や政策にとどまっているようにしか見えない。発展という点を重要視しているようなので、重点事業を掲げて県を引っ張る施策、圏域を引っ張る施策が欠けていると思うので、加えて欲しい。

【政策・施策】

- ・ 「地域づくり」は「人づくり」である。特に島前地域においては島前高校が重要であり、魅力的で他からも人が集まる高校にしていきたい。
- ・ 観光について、石見銀山の世界遺産登録による集客を隠岐島前に結びつけることはできないか。隠岐のイメージアップを図るような全国的なPRを、県もいっしょに今まで以上にやっていただきたい。
- ・ 活力ある島根を目指すには、隠岐地域では衰退の一途である漁業の振興が必要である。県、町村が力を合わせ、UIターンと併せ、生活安定等での対策をするべき。
- ・ にほんばし島根館の再検討を望む。物産のリサーチと、試作品展示を実施するコーナーを設置すべきである。

【航路】

- ・ 産業基盤の維持・整備の中で、「隠岐航路の維持」を入れていただきたい。民間航路

であるので民間の責任ではあるが、隠岐航路は隠岐島民の生活基盤の根元であり、国の制度を含め、この総合発展計画の一端に載せていただきたい。

- ・ 産業、福祉、教育ともに隠岐汽船の運賃、利便性が隠岐地区では非常に大きな影響を与えている。
- ・ 航路（海）を国道と考えるべきだと思う。国道を維持するのは国の責任である。隠岐汽船の問題があり、経営努力が最優先というが、国道としての管理をした後に会社の努力をいうべき。
- ・ 隠岐空港を利用するため、島前島後の船便の確保。現状では島前は利用できない。
- ・ 隠岐航路の充実にもっと力を入れて欲しい。隠岐観光のネックに、旅客運賃は大きなウェイトを占めている。

【地域づくり】

- ・ 隠岐圏域には島後・島前がある。隠岐汽船、空路いずれにしても島前は不利。圏域で考えるのではなく、別々に考えてもらいたい。

【その他】

- ・ 離島であるがゆえに出てくるデメリット、本土との差を少しずつでも解消して欲しい。
- ・ 明るい未来を築くため、これから安心した生活を送れるような法律、計画を考えて欲しい。このすばらしい島をもっと広い人々にまで知ってもらいたい、そして、もっと活気のある輝く島になるのなら協力していきたい。
- ・ 島前高校生徒の人数が減っているのが一番気がかり。学校の問題だとは思いますが、県の方が何かできるのならしてもらいたいと思う。
- ・ いろいろと政策があるが、その中でどれだけのことを実行するのが大切だと思う。スポーツにおいて、練習試合もできない隠岐に比べて本土はどんどんやっているのは、差別だと思う。
- ・ 島根県が好きなので、将来は島根で就職したいと考えている。しかし、少子高齢化によって若い人は減ってきており、就職するところは減ってきているし、交通の面は不便なので、このままでは就職できないと思う。
- ・ 将来この隠岐、島根から出ることがあったとき、自分たちのふるさとに何か恩返しなどしたい。「ふるさと納税」など大阪・東京などに比べると力は弱いかもしれないが、もっと押していって欲しい。
将来隠岐に帰ってこようと思っても働く場所がなければ帰ってこれない。企業を作ったとしても物資の輸送にお金がかかる。
- ・ 離島のハンデというのを“勉強ができない”、“スポーツが弱い”ことの理由にしたくはないが、本土より劣っているのは現状です。私はとても悔しいので、頑張るつもりなので、県でバックアップしていただきたい。

SNSでも全国の若者からの島根のイメージはひどいイメージが多い。東国原知事のようなカリスマ性を全国にアピールしていかないといけないと思う。